

所属協会紹介

この欄では順次全国所属協会のご紹介を致します。次はどここの所属協会が指名されるのか。ご準備ください！

KIS 京都府インテリア設計士協会

事務局：京都市中京区夷川通堺町西入ル絹屋町 129 宮崎平安堂ビル
〒604-0804 TEL. 075-222-8222 会長：元山 ゆたか / 事務局：中田 富佐子

◆秋の建築研修バスツアー◆

12月7日(土)天気予報では傘マークがあり京丹後特有のどんよりとした天気を覚悟して、秋の建築研修バスツアーはスタートしました。

今回は、海花亭旅館「花御前」と「森の中の家」安野光雅館を見学に行きました。「海花亭」は京都府インテリア設計士協会の理事/野口企由氏の設計によるもので、野口さんにご同行頂き設計主旨など、現地と照らし合わせながらの説明はやはりより理解を深められて有意義でした。

安野光雅美術館では副館長の方から、設計者の安藤忠雄氏の話や安野光雅氏の人柄までご説明を受け、こちらも理解を深められました。

今回遠くからご参加頂いた愛知、大阪、兵庫、はじめ学生の方、京都の皆様ありがとうございました。

当日の天気は元山会長が行きのバスの中で「わたくしは晴れ男やあ 絶対晴れる！」と豪語していたとおり、概ね晴れて良かったです。

次回も多くの方にご参加頂ける企画を考えています。よろしくお願いたします。

(KIS副会長・高木 善次)



森の中の家 安野光雅館



海花亭 花御前



海花亭展望食事処



海花亭館内は全て畳敷きで、素足で行動します

HIS 兵庫県インテリア設計士協会

事務局：兵庫県姫路市龍野町 1-1 久保剛内
〒670-0032 TEL. 0792-92-7815 会長 / 事務局：久保 剛

◆酒蔵見学会◆

兵庫県インテリア設計士協会(HIS)は毎年酒蔵見学を実施していましたが、コロナの影響で中断していました。令和6年度から再開、1848年創業の明石の「茨木酒造」を11月30日(土)に見学しました。

170年以上続く伝統的な酒蔵は、夏場の日差しを遮るために南側は土壁、北側は冬の厳しい寒風が入りやすいという機能的な構造になっていました。数年ぶりに再開した酒造見学を通して、伝統的な酒造りの技術と歴史、酒蔵独自の建築様式を学び、また、会員同士の交流と情報交換の場としても大変有意義な時間を過ごすことができました。

今回、OIS(大阪)からも4人の方にご参加いただきました。今後も多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(記・大野 知子)



第64回インテリア設計士資格検定

受験者数と合格者数 ※受験協会のみ

	1級		2級		合計	合格者
	2科目	2科目	実技	学科		
宮城	-	43	-	5	48	41
東京	0	16	0	1	17	13
石川	0	33	0	0	33	25
静岡	0	1	1	0	2	1
愛知	0	43	1	2	46	39
京都	0	324	1	0	325	234
大阪	0	44	0	0	44	24
広島	0	12	0	0	12	10
高知	0	61	4	1	66	47
大分	1	10	0	0	11	9
合計	1	587	7	9	604	443

1級に挑戦!

2級インテリア設計士の資格を取得後、4年以上のインテリア関連の実務経験があれば、論文のみで1級に昇級可能です。

2級の人はぜひ挑戦してください。(※詳しくは事務局まで、ご連絡ください)

SJIT通信

communication

一般社団法人
日本インテリア設計士協会
〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
Tel. 06-6262-1488 Fax. 06-6262-1553
E-Mail. sjit@jp-interior.or.jp
発行責任者:元山 ゆたか 編集:会報編集室

2025年日本インテリア設計士協会の新たな一歩



会長 元山 ゆたか

SJIT通信発行にあたりましてご挨拶申し上げます。

永らく病氣療養中でおられた、故・古田会長が去る令和6年10月8日に逝去されました。リハビリに励んでおられ病状回復傾向と伺っていましたが、急な訃報に接し唯々驚くばかりです。謹んで哀悼の意を表しますとともに、ご遺族様にお悔やみ申し上げます。

故・古田会長は当協会の運営に大変意欲的に取り組んでこられました。インテリア業界で最も古い資格団体の一つである当協会ですが、広告宣伝が控え目なことから業界内での知名度が低下しており、業界内での認知度向上の方策を考へられ、各方面に働きかけをしておられました。また、資格検定試験の在り方、実技教育の充実も視野に新制度の創設も検討しておられました。志半ばで病に倒られたこと、悔やまれてなりません。

さて、昨年の大分での本部総会において、故・古田会長が病氣療養中であり協会本部の運営現場へのご出席が難しい状況から、故・古田会長からのご指名を受け、私が会長代行の任に当たることを決議ご承認いただいております。この度、法令の規定と理事会並びに当協会定款に基づき、第十代会長を拝命することになりましたことをご報告させていただきます。

【自己紹介】

私は現在、地元京都の「野口建設株式会社 執行役員企画営業部長」として勤務しております。業務内容は、総合請負業であり、建築・不動産関連の営業、企画提案等です。職務経歴としては、同社グループ社で建物管理業務・設計業務・不動産業務各部門の部門長を経験しています。実は、前職でホテルマンも経験しており、少し変わった経歴を持っています。

私の日本インテリア設計士協会での歩みは、1990年に2級インテリア設計士となり当協会の会員になりました。その後、1級インテリア設計士を取得し、京都府インテリア設計士協会(当時は京都府室内装備設計士協会と称していた)の青年部会長を経て理事に就任しております。本部では、2007年から京都地区区議員として理事を拝命しました。また、2015年から京都府インテリア設計士協会の会長を務めさせていただき、2017年より本部の副会長も仰せつかりました。当協会では、会の活動を通じ多くの諸先輩方からのご指導をいただき、また、学ばせていただき現在に至ります。

【今期の活動方針と協会の将来について】

今期期首の総会にて事業計画をご承認いただいております。

3つのパートからなる事業計画で、1.人材育成事業・2.普及啓発事業・3.その他、に分かれています。

1.人材育成事業では、資格検定試験の実施によるインテリア設計士の育成等を謳い、2.普及啓発事業では各都府県協会(正会員)の連携や関係諸団体との連絡提携、協賛会員(法人会員)の拡大やホームページ、SNSを活用した広報などの計画を示しております。この二つのパートは、定型的内容で勿論重要ですが今期は、三つ目のパートがより重要であると考えています。それは、当資格を一般受験者へ門戸を広げる新たな資格制度の創設(現在の受験は在学中受験がメインとなっており、一般受験はほぼありません)研究の加速と、ネット配信を視野に入れたビデオ講習システム創設に向けた準備です。これらの目的は、専門教育を受けている方や建築・インテリア業界以外の方にもインテリアに興味を持っていただき、既定の資格(1級・2級インテリア設計士)と合わせ会員の裾野を広げるとともに協会活動の活性化です。

日本インテリア設計士協会はインテリア業界で最も古い団体の一つですが、今までの伝統と文化を大切にしつつも、現代の価値観に合致した仕組みの見直しや新たな取り組みを積極的に取り入れ、組織を維持するだけでなく発展させること、変革し続けることが必要です。

各都府県協会執行部の高齢化傾向が進み、組織維持のためにも若い世代の参加を求めています。各都府県協会は、若い世代に参加いただける環境を整え、その活躍の場を広げていただきたいと存じます。例えば先進的建物や伝統的建物の見学ツアーの開催、勉強会・セミナーの実施等の事業や作品発表の機会提供など各地都府県協会での取り組みを全国に拡げて会員の皆さんが参加できる場作りも大切です。都府県協会の環境によっては人的資源の不足から活動が実施できない所もあると思いますが、近隣の都府県協会との連携や合同開催も有効です。更に青年部活動を活発にし、若い会員さんの組織化も必要と考えます。他にも様々な手法があると思いますので、会員の皆さんからの要望・アイデアを各都府県協会や本部にあげていただきたいと存じます。会員の皆さんが楽しくご参加いただける協会を目指します。

各都府県協会(正会員)の組織維持発展と合わせ、協会本部の機能充実も喫緊の課題です。当協会の理事会は全国広範な各都府県協会から役員を輩出いただいて運営をしております。各都府県協会が元気でないと本部協会も元気が出ません。インテリア業界を牽引する次世代を育成する団体であり続けるため、各都府県インテリア設計士協회를盛り上げ、一般社団法人日本インテリア設計士協会を発展させたいと考えております。皆様のご協力を願って止みません。

一般社団法人日本インテリア設計士協会 第58期通常総会 (大分大会)

5月18日(土)アートホテル大分にて総会・講演会・交流会を開催し、翌19日には実に5年ぶりとなるバスツアーでの見学会を実施しました。

まず、総会が開催され、全国の所属協会から35人の会員が集い、元山会長代行の挨拶のほか、決算・事業計画等について報告と審議がなされました。

次に、日本文理大学非常勤講師で建築設計事務所DABURA. m (株)の光浦高史氏により「土地の力を呼び起こす空間」と題して講演会が開催されました。光浦氏は長年にわたって「地産地消の建築」を標榜した活動を継続しており、代表作である「ガレリア御堂原」を中心に、その場所ならではの材料・技術・人材を設計に取り入れていくことによって、建築の個性が培われ、延いては土地の力を呼び起こす空間づくりにつながることを、実践を示しながら分かりやすく解説なさいました。

光浦高史氏

交流会では、全出席者がステージに登壇し、会員ひとりひとりが所属協会での取り組みについて報告するとともに、協会活動に積極的に参画する意志を表明し、親睦を深めるとともに未来志向の意義深い会合となりました。

2日目には見学会が開催されました。まず、アートプラザ(設計:磯崎新氏)では、解体される予定であった旧大分県立図書館を保存活用に至らせた立役者の一人である日本文理大学副学長 島岡成治氏の解説により、磯崎新建築展示室等を見学しました。次に、OPAM大分県立美術館(設計:坂茂氏)では、学芸員の案内により免震構造、床下換気OAフロア、吊り構造などを見学しました。さらに、ホーバーターミナルおおいた(設計:藤本壮介氏)へ移動し、オープン前でしたが内部も含めて見学させていただき、訓練走行



中のホーバークラフトも見ることができました。

最後に、ガレリア御堂原を設計者である光浦高史氏の解説により詳細に視察し、宿泊室内にも入らせていただくことができました。終了後はレストラン「THE PEAK」で舌鼓を打ち、参加者は皆、大満足の様子でした。

協会会員のほか、高校教員等協力者が6名、地元の高中生・大学生が延べ25名参加してくれました。その他にも美術館職員や県庁職員など地元の協力を得て実施することができました。この場をお借りして、皆さまに心より感謝申し上げます。

(大分県インテリア設計士協会・会長/近藤 正一)

ガレリア御堂原



業界で活躍するインテリア設計士

築浅リノベ事例 (自邸)

増木工務店入社以前の2011年に建築条件付の土地を購入し、指定の建築会社で新築した家をリノベーションしました。土と緑を残し、未来を見据えた自社の住まいづくりに携わる中で、自分の暮らしを見つめ直し、大規模にリノベーションすることで地域に愛され、次の世代へ住み継がれる住まいにしたいと考えたためです。

【量販型の住宅から増木の家に】

まだ新しいのにもったいないと思われるかもしれませんが、メンテナンス費用や高い光熱費を払い続けあと20年もすると、あちらこちらに不具合が生じ、住み替えや建て替えなんていることもあるかもしれません。それなら、メンテナンスをする前に「耐震性・断熱性能・木の設え・街の風景」をつくる住まいに蘇らせることで、コストだけでなく心豊かに暮らせるのではないかと。何より自分が工務店の家に住みたいと思ったのが一番の理由です。また、私と同じように立地を優先した結果、築年数の浅い住まいでも不安や不満を感じている人も多いのではないかと。

全部取り入れるのは難しくても、さまざまな形で手を加えることができれば、暮らしを変えられるのでは?と考え、築浅リノベーション計画がスタートしました。

【周辺環境から考える】

今回の計画にあたり、改めて自宅の周辺環境を俯瞰してみました。T字路に建つ高さ10m近い自宅が、高台から黒目川までつながる風の通り道を遮っていることに気づきました。屋根の高



東京都インテリア設計士協会理事
高木 恭子 一級インテリア設計士
(株)増木工務店 取締役

さを下げて平入に架かえることで、屋根の傾斜によって風が川の方へ流れたら素敵ではないですか。南北に風が通り抜ける、この地域の風土に沿った住まいになりました。

【構造を整える】

新築時、暮らしの要望をそのまま形にした間取りの住まいは、耐力壁の位置がバラバラ。地震波を入れたシミュレーションでは、余計な力が下階にかかっていることがわかりました。壁の位置を整え、屋根の高さを変える構造計算を実施し、耐震性能を向上させました。

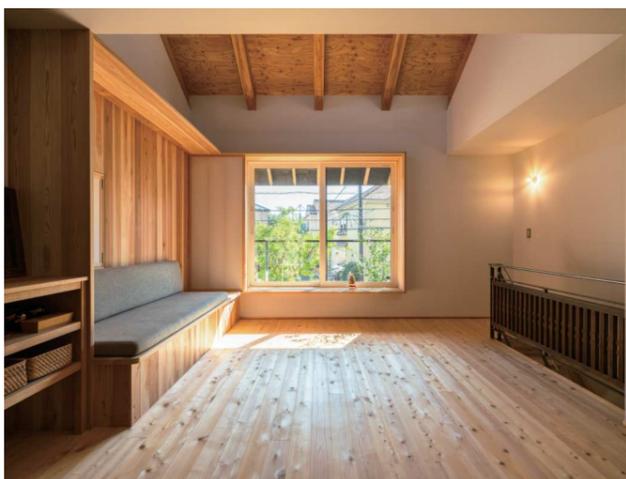
【壁はつぐらない。居場所をつくる】

構造を整え、不要な壁を取り除いたのに、また壁を建ててしまっは、空気のながれや視線が抜けずもったいないので、間仕切り壁は建てずにスケルトンの状態で空間をつくりました。これは私たちが新築住宅で実施している木造ドミノ住宅と同じ考え方です。建物をスケルトン(構造)とインフィル(設備・間仕切り壁)に分け、暮らしの変化にあわせて空間構成を変えることができれば、世代が変わっても自由に変化させることができるという住まいです。床の上げや家具、カーテンでなんとなく空間を分け、窓や照明、造作ベンチなどで色々な所に居場所をつくることで、家族のプライベートを確保しながら気配を感じられます。

【暮らしの設えに楽しさを】

増木工務店に入社してから建物づくりを楽しむ職人さんや、住まい手さんなど、沢山の出会いがありました。部屋の中心にある木のキッチンや玄関の古建具、手摺の格子など、つながりを大切に住まいに取り込むことで性能だけでなく、つくり手の温もりや遊び心を感じられ、日々の暮らしを豊かにしてくれると感じています。

増木工務店
⇒



OIS 大分県インテリア設計士協会

第13回家具デザインコンペ

昨今、とりわけネット社会の中で、ギスギスしたやり取りが増えているように見受けられます。そういう時代だからこそ、心から可愛いと感じ、何かを慈しむリアルな体験が求められているのではないかと考え、今回は「かわいい家具」をテーマにして募集しました。

九州内の13の学校より100点の応募があり、最優秀賞は熊本デザイン専門学校2年の森万利とさん「ここころん」が受賞しました。「かわいい」が単にモノとしての属性ではなく、人間が使っている姿に共感を得るなかで発生する情動に起因することを明快に示す出色のアイデアであることから、審査員一同、全会一致で最優秀賞に推しました。なお、森さんは、もう一作品応募しており、佳作にも同時受賞しています。

こうした文化的事業は、見える形での成果がなかなか表れづらいものだからこそ継続が大事だと考えています。すでにインテリアデザイン教育に取り組む九州の学校で「インテリア設計士の家具デザインコンペ」を知らない教員はいないと言っても過言ではないほど、知名度が向上してきました。今後もさらに裾野を広げて事業を継続していく中で、新たに資格取得にチャレンジする学校が増えてくれることを期待しています。

ここころん



(記・近藤 正一)

所属協会紹介 AIS 愛知県インテリア設計士協会

事務局:名古屋市南区東又兵衛町2-4 〒457-0833 TEL. 052-612-0489
会長:カトリック/事務局長:安田 和弘

ここでは、愛知県インテリア設計士協会(AIS)で行ったイベントを2つご紹介させていただきます。

①11月17日(日)に、毎年恒例の「秋の研修見学会」を開催しました。今年の目的地は大阪。「こども本の森 中之島見学・大阪中之島レトロ建築巡り」というテーマでの見学でした。「こども本の森中之島」は安藤忠建築研究所が設計、寄付した建物です。今回は館長の伊藤さんに館内を案内して頂きました。

「中之島レトロ建築巡り」ではボランティアガイドの皆さんご協力いただき、中之島周辺の建築物を見学しました。

大阪市内という事もあり、大阪(OIS)と京都(KIS)の人にも現地からご参加いただき、にぎやかな見学会となりました。



こども本の森 中之島

②12月7日(土)に、名古屋市東区「文化のみち 撞木館(しゅもくかん)」を会場として、インテリアワークショップを開催しました。参加者の方には、白いケーキの箱の中を部屋に見立て、壁や床を壁紙や布などで装飾したミニチュアインテリアを作って頂きました。実際にインテリアで使用する装飾材に触れて頂く良い機会になったのではないのでしょうか。ふと立ち寄りサンプル品を見て「可愛い〜」と足をとめてご参加頂いた人もいました。

イベント終了時には「来て良かった」「楽しかった」などのご感想が頂いた事は、主催者としては嬉しい限りです。

AISでは今後もいろいろな催しを企画していきますので、機会があれば是非ご参加ください。

(記・AIS副会長/河村 幸次)



関東の三協会が統合します

2019年からすでに一緒になって会議を開き、イベント開催、試験関係の件などいろいろと話ってきました。2025年度4月に東京・神奈川・埼玉の三協会が、東京都インテリア設計士協会に統合し活動します。

会員の皆様のご声援をお願いします。

TIS 東京都インテリア設計士協会

事務局:〒183-0013 tel. 042-319-8280
東京都府中市小柳町4-5-4 榎戸副建設内

会長:戸井口 剛
事務局:村山 紀子
顧問:小川 文雄
理事:高木 恭子、小川 宏